次号予告 2005年9月号

特集1 設計&検証言語"SystemVerilog"
～Verilog HDLを洗練させた次期ハードウェア記述言語標準～

特集2 差動インターフェースを手軽に使う
～数百Mbps通信に低コストFPGAを活用する～

(2005年8月10日発売／予価1,240円)

■特集1は，システムLSIの設計言語に関する話題を取り上げます．2005年内の標準化を目指して，米国IEEEではSystemVerilog(IEEE P1800)の承認投票が行われています．これに伴って，Verilog HDLシミュレータ・ベンダやHDLデバッガ・ベンダ，機能検証ツール・ベンダなどがSystemVerilogの対応製品を続々と発表しています．SystemVerilogは既存のVerilog HDLを拡張した仕様を備えています．設計(実装)記述が書きやすくなり，さらに検証言語としての仕様も盛り込まれました．次号の特集1では，こうしたSystemVerilogによる設計手法を紹介します．最新動向や基本構文，検証環境の構築例，アサーションの記述方法などを解説します．
■特集2は差動インターフェースに関する話題です．数百Mbps以上の信号を回路として実装する場合，差動伝送が威力を発揮します．アプリケーションは多岐に渡ります．本特集では低コストFPGAを例に，数百Mbpsの信号伝送を取り扱うテクニックを紹介します．

編集後記

●6月にアナハイムで開催されたDesign Automation Conference(DAC)を取材してきました．事前の予想どおり話題が多かったのがDFM(design for manufacturability)，予想外の盛り上がりを見せていたのが設計言語関連です．確かに，SystemC(IEEE P1666)，SystemVerilog(IEEE P1800)，PSL(IEEE P1850)など，IEEE標準化のための承認投票が続々と始まっています．会場では「今年(2005年)は設計言語のミラクル・イヤーだ」という声が上がっていました．(SN)
●愛・地球博で開催されたプロトタイプ・ロボット展に行ってきました．リニモに乗るまで40分弱，ピークにぶつかってしまったようです．リニモを降りた後でゲートの入場待ちの列にたどり着く前にさらに20分の待機があったことも予想外でした．やっとたどり着いた目的の展示会場も身動きがとれないほどの混雑ぶりでした．団体で来ていた幼稚園児たちには，ぜひ，ロボット開発に興味を持ち，技術者の道を選んでもらいたいものです．(N^2)
●マスコミの力はすごい！ と最近あらためて感じたできごと．ある番組で「食事前にこれを食べるだけでやせる」と報じられた食品．次の日さっそく近くのスーパーに買いに行くと品切れ．ちょっと離れたスーパーにもなく，かなり遠出しても手に入らず…．結局1週間，売り切れ状態が続いていました．みなさん，マスコミに踊らされてはいけません(いちばん踊らされている私…)．(と)
●毎日血圧を測ってみると，朝起きられないときや夜睡魔と戦っているときは20ぐらい血圧が下がっていることがわかる．そう快な朝の目覚めは若干高めで，腹を立てたり締め切り前で焦りまくっているときは20ぐらい血圧が上がる．人間の体って正直なものだ．昔から「低血圧の人は朝が弱い」と言われるが，ほんとうなんだなと実感．血圧を高めに誘導すれば，しごとははかどるが，体には負担が大きいだろうな．(み)
●渡米経験は数回あるが，今回ほどトラブルに見舞われた出張は初めてだった．サンフランシスコ-サンタアナ便がオーバーブッキングで終日乗れず，レンタカーで500マイルの運転を強いられた．数日後，最終目的地のミネアポリスに着いてみると，今度はホテルのサーバがダウンしており，チェックインに数時間も待たされた．まったく踏んだり蹴ったりの旅…．何度も切れそうになりながら，アメリカ人の気の長さに感心した．(英)
●目が乾く，背中が痛い，腰が痛い，足が痛い，脚がつる！と眠れず，夜中にひとりでのたうちまわった．原因は，昼間にした山登り．ハイキング程度のものとはいえ，ふだんは机に座ってのしごとなので，どうしても運動不足になりがちである．しょうがないか．ところで山登りをしていたとき，周囲の人間を見てみると，厳重な装備かまったくの軽装かのどちらかだ．ミュールとビーチ・サンダルのどちらに軍配を上げようか．(T)

お知らせ

▶ **投稿歓迎します**
本誌に投稿をご希望の方は，連絡先(自宅/勤務先)を明記のうえ，テーマ，内容の概要をレポート用紙1～2枚にまとめて「Design Wave Magazine投稿係」までご送付ください．メールでお送りいただいてもけっこうです(送り先はdwm_edit@cqpub.co.jp)．追って採否をお知らせいたします．なお，採用分には小社規定の原稿料をお支払いいたします．

▶ **お問い合わせのご案内**
● 在庫の確認，バックナンバーのご購入，年間購読の送付先案内などに関して
販売部：TEL03-5395-2141
● 広告に関して
広告部：TEL03-5395-2131
● 記事に関して
編集部：TEL03-5395-2126
記事の技術的な内容にかかわるご質問は，返信用封筒を同封して編集部宛に郵送してくださるようお願いいたします．ご質問は筆者に回送してお答えいたします．なお，ご質問が記事内容から逸脱したり，コンサルティング的な内容の場合は，お返事できないこともございます．

Design Wave MAGAZINE 2005年8月号

URL http://www.cqpub.co.jp/dwm/
http://www.kumikomi.net/

第10巻 第8号 通巻93号

発行所 CQ出版株式会社
〒170-8461 東京都豊島区巣鴨1-14-2
電 話 販売部 (03) 5395-2141
広告部 (03) 5395-2132
編集部 (03) 5395-2126
振 替 00100-7-10665

発行人 増田久喜
編集人 中山俊一

2005年 8月 1日発行

(定価は表四に表示してあります)

表紙デザイン AD/田中智康，写真/©WORLD PHOTO SERVICE
DTP クニメディア㈱
印刷・製本 大日本印刷㈱
Printed in Japan